



2016 情熱疾走 中国総体 和歌山県で ヨット競技大会開催



高校スポーツ最大の祭典であるインターハイ。そのヨット競技大会を平成36年まで、和歌山マリーナシティにある和歌山セーリングセンターで開催します。

本年度は、8月12日(金)から16日(火)までの間、全国から高校生セーラーが来県し、和歌浦の海を舞台に熱戦が繰り広げられます。ヨット競技は常に変化する風をよみ、最適なコースで進む判断力と他の選手との位置取り等かけひきが求められるスポーツです。

本大会の開催を契機に、「和歌山の海」の素晴らしさを全国に発信するとともに、ヨット競技の普及を図っていきます。

日本トップレベルの高校生セーラーの応援に、ぜひみなさんも会場へお越しください。

公立中学校3年生が英語検定にチャレンジ! 英語力の向上をめざす

和歌山県では、平成23年度から国際人育成プロジェクトに取り組み、外国の人々と対話できる英語力を身に付けた、広く世界で活躍できる人材の育成をめざしており、その一環として、昨年度から検定料を県で負担し、公立中学校の3年生を対象に、英語検定を導入し、学習指導に活用しています。

この取り組みでは、生徒が、英語検定をめざして意欲的に英語学習に取り組むとともに、その結果をもとに、各学校が授業改善を進めることで、生徒一人一人の英語力の向上を図っています。

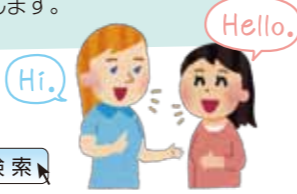
なお、一次試験は、各中学校において、10月7日(金)に行われます。

※英語検定とは、公益財団法人「日本英語検定協会」が学習指導要領の内容に基づき作成し、実施する「実用英語技能検定」のことです。協会のホームページに、各級の目安(レベル)や過去の問題などが掲載されていますので、参考にしてください。

公立の中学校3年生の保護者の皆様へのごお願い ～二次試験[11月6日(日)]の対応を～

英語検定の受験級は、中学校卒業程度の内容を問う3級を基本としています。3級以上は一次試験と二次試験があり、各中学校で実施する一次試験に合格すると、日本英語検定協会が指定する県内の会場で二次試験(面接試験)があります。県としては、二次試験を受験する生徒に対して、傷害保険をかせさせていただきますが、受験会場までの交通費を各御家庭に負担いただき、保護者の責任のもと受験させていただくことになります。

保護者の皆様には御負担をおかけしますが、本事業の趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願いいたします。



英語検定 検索

知っていますか? テレビやラジオ番組で学校や地域の特色ある取組を放送しています。

教育ラジオ放送 定期便 教育の窓

放送日時 第2、第4土曜日 8:45～9:00
和歌山放送で放送しています。

- 今後の放送予定
- 8/13 ●特別展「泳ぐカメ」
 - 8/27 ●和歌山県が誇る世界遺産
 - 9/10 ●全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会開催
 - 9/24 ●「サマー遊ing2016」
 - 10/ 8 ●「地域づくりとコミュニティの形成」
～有田川町における休校を活用した取り組みを通して～
 - 10/22 ●地域みんなが子育て応援団
 - 11/12 ●全校児童が主役の「北山会議」
 - 11/26 ●大規模展「動き出す! 絵画-モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち-」



教育テレビ番組 はばたく紀の国 ～教育は今～

放送日時 平成28年10月～平成29年3月第1、第3日曜日
10:30～10:50
テレビ和歌山で放送しています。

※すべての番組に手話通訳が付きまます。

今後の放送予定

- 10/ 2 ●運動部活動!
～主体的に「取り組む」「支える」～
- 10/16 ●「世界津波の日」における地震・津波避難訓練
～「稲むらの火」から学ぶ～
- 11/ 6 ●岩橋千塚古墳群とその時代
- 11/20 ●地域力を生かした子供・子育て支援



※テレビ・ラジオとも、これまで放送した番組については、和歌山県教育委員会のホームページで公開しています。ぜひ、ご覧ください。 ※都合により、放送内容が変更になる場合があります。

きのくに 教育めぐり 教育長挨拶

串本町教育委員会



日本トルコ友好マスコットキャラクター「まぐトル」



串本町は、本州最南端の町です。串本の海は、黒潮のはたらきにより常に暖かく、世界で最も北にサンゴの群落があり、ラムサール条約にも認定されている貴重な海です。

また、橋杭岩を始めとする特徴的な地形は、南紀熊野ジオパークとして認定されています。

昨年は、「エルトゥール号遭難」の史実に基づいた映画「海難1890」が公開されました。串本の子供たちは、先人たちの偉業を誇りに思い、その真心を受け継ぎました。今後、日本・トルコを始めとする国際友好関係を更に強める中心的な担い手となって欲しいと願っています。

串本町では、町教育基本方針である「人間尊重の精神を基盤として家庭や社会を愛する心情を培うとともに、豊かな知性と教養を身につけ、真理を希求し、自主自立の態度で絶えず心身の向上に努める人間の育成を目指す」を受け、目指す人間像を(1)人間尊重の精神を持ち、仲間や郷土を愛する人間、(2)知徳体のバランスのとれた力である「生きる力」を身につけた人間、(3)自主自立の態度で絶えず心身の向上に努める人間と設定して教育を行っています。

今後も地域の豊かな自然、歴史、文化、人材を最大限に活用し、全ての活動の基盤となる学級集団づくりや地域共育コミュニティ形成を重視しながら、学校・家庭・地域・教育委員会が一体となった取り組みを推進していきたいと考えています。

串本町教育委員会 教育長 野呂 正人

国際交流 「レイディ・ワシントン号」 ～おもてなしの記録～



1791年4月29日、米国商船「レイディ・ワシントン号」と「グレイス号」が大島に来航。その時の様子が記された航海日誌が、今年米国で発見されました。そこには、「薪と米を持ってきて船長に贈った」などの記述があり、島民と友好的であったことを推察することができます。

ケンドリック船長の家が保存されているマサチューセッツ州ウェアハムのミノーフレスト小学校と串本町立田原小学校の5・6年生が今年から文通を始めます。225年たった今、子供たちによる新たな交流が始まることになり、日米友好の気運がいっそう高まっています。

ケンドリック船長の家が保存されているマサチューセッツ州ウェアハムのミノーフレスト小学校と串本町立田原小学校の5・6年生が今年から文通を始めます。225年たった今、子供たちによる新たな交流が始まることになり、日米友好の気運がいっそう高まっています。

「トルコ・メルシン市との交流」

串本町は、トルコ・メルシン市、ヤカケント市、アメリカ・ヘメット市と姉妹都市提携を結んでいます。メルシン市とは1994年から交流が始まり、町内中高生との交流、ホームステイ、日本食、カヌー等の各種体験を行い、串本の文化・習慣に多く触れる機会をつくっています。



本年度は8月17日から2週間、トルコ青少年団が来訪します。串本の子供たちにはこの交流を通じて、外国の文化等に対する興味・関心を持ち、今後の友好関係を築く中心的な担い手となる自覚を持ってほしいと期待しています。

防災教育 「子供たちの命を守る避難訓練」



南海トラフ巨大地震の際には、全国で最も早く津波が到達するのが串本町だと想定されています。



東日本大震災以降、各校で子供の命を守るにはどうしたらよいかを考え、県が作成した防災教育指導の手引きやゲストティーチャーを活用した学習及び地域と連携した訓練を実施して、正しい知識と情報をもとに適切に行動できる力を育てています。

今後は、いつ、どこにいても臨機応変に行動できるよう、子供が主体的に考え、判断し、行動できるよう、学校だけでなく、地域と共に考えて実施する防災の取り組みを推進していきたいと考えています。そうすることで地域全体の防災力向上、子供たちの命を守ることに繋がっていくことと考えています。

町内では隣接する学校や地域と合同で、また、自衛隊や警察、スクールバスやJR関係の方々や連携して様々な訓練を実施しています。